

ぱおぱお ニュース

< 病気の豆知識 >

今月は… 『マイコプラズマ』です

マイコプラズマという細菌が肺に感染して起こる病気で、幼児や学童期にかかることが多い病気だと言われています。簡易検査だけでなく、血液検査やレントゲン写真など総合的にみて診断されます。

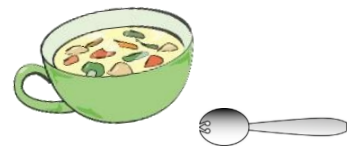
< 典型的な症状の経過 >

症状は喉の痛み、咳や発熱などの風邪症状から始まり、だんだんと症状が重くなると言われています。上がり下がりを繰り返す頑固な発熱と、しつこい咳が特徴的です。熱が下がっても咳が1ヶ月近く続くこともあると言われています。



< ホームケア >

食欲がない場合は、脱水に気をつけて水分補給をこまめにしましょう。イオン飲料、野菜スープや味噌汁などお勧めです。本人の好きなもの、食べられるものでカロリー摂取も必要です。



< 感染予防には >

咳やくしゃみのしぶきによる飛沫感染や、手についた細菌からの感染を防ぐことがポイントとなります。そのため、マスクの使用や手洗いをしっかりとすることが大切です。また、口の中や喉についた細菌を洗い流すためのうがいもとても有効ですね。



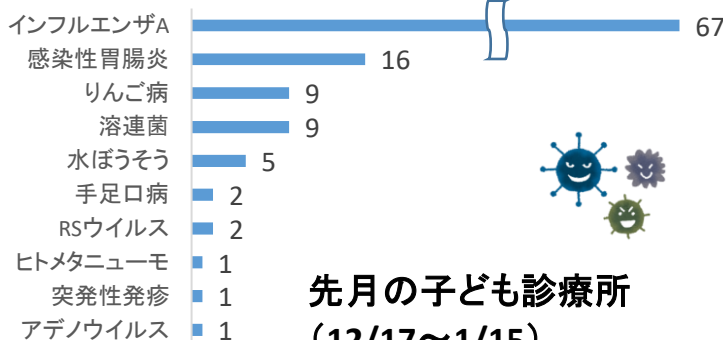
高熱が続く、咳き込みがひどく吐いてしまう、何も食べられず元気がなくなってきたなどの時はもう一度受診したほうがよいでしょう。



< 登園・登校の目安 >

熱が下がって咳が少なくなり、主治医の許可があれば行ってもよいでしょう。ただし、しつこい咳が続きますのでおさまるまでは、激しい運動は少し控えたほうがよいでしょう。

< 感染症情報 >



子ども診療所では…

・1月に入り、インフルエンザA型が流行しています。
マスクを着用し、手洗いうがいを行いましょう。

病児保育室ぱおぱおでは…

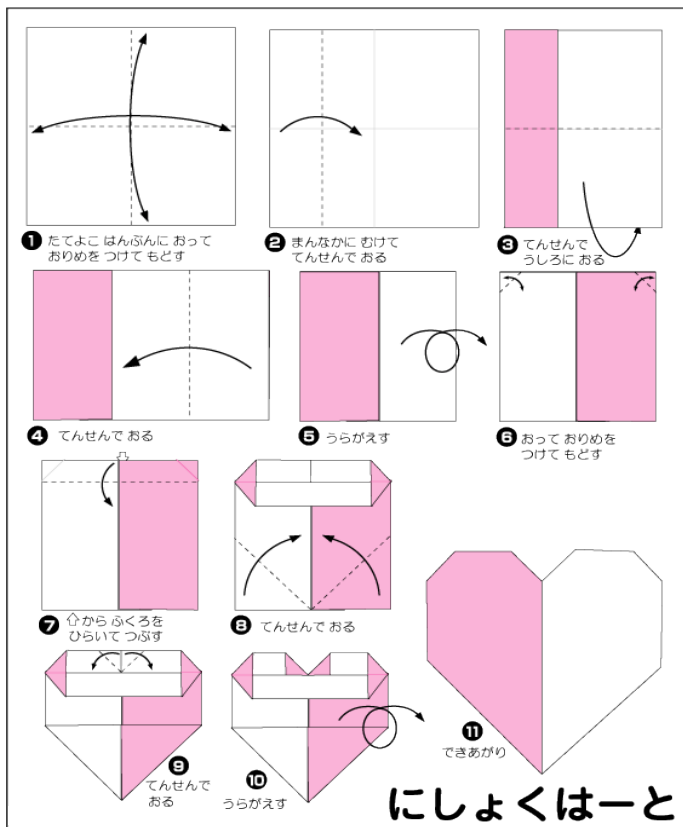
・インフルエンザA型でのご予約が増えて、キャンセル待ちが出ています。
マスクの着用をお願いしています。
・乾燥による肌荒れが目立っています。
入室の際は、保湿剤をご持参ください。

< バレンタインデー >

2月14日はバレンタインデーに女性から好きな男性へチョコレートを贈るという行事は日本独特の文化ですね。なぜ、このような風習が生まれて現在のかたちに定着したのでしょうか？

明らかになってはいませんが、「あなたのバレンタイン(=愛しい方)にチョコレートを送らしましょう」という広告から始まり、長い年月をかけて1970年代頃バレンタインデーにチョコを贈るというかたちが一般に広がったとされています。

現在では、女性が男性に愛情の告白として贈る「本命チョコ」、恋人までいかないが、友人として贈る「義理チョコ」、主に女性間で贈る「友チョコ」、男性が女性に贈る「逆チョコ」、自分で買って食べる「マイチョコ」、男性が男友達に贈りあう「強敵(とも)チョコ」、家族に贈る「ファミチョコ」があるそうですよ。



◎さまざまな人に贈るチョコと一緒に愛情や感謝を込めてハートの折り紙を親子で折って添えてみてはいかがでしょうか？

<スマイルコーナー> 病児保育室での心温まるエピソードなどをご紹介しますね。

プレゼント

1年ぶりに入室してきたYちゃん。入室した日はちょうど、お父さんのお誕生日。

「お父さんにプレゼントをする！」と折り紙でミッキーマウスを折ったり、お父さんに似た？！絵を写し絵キットを使って描いていました。写した絵に色鉛筆で色を塗るときも「お父さん、いつも青のパーカーを着ているから、青で塗ろう！」と普段のお父さんを思い浮かべながら塗っていました。最後に「I Love You」の言葉も書いて完成！きとお父さんも喜んでくれるね！と帰って行きました。

次の日、お父さんに渡したら喜んでくれたよ！と教えてくれました。

Yちゃんからもらったプレゼントをずっと大切にしてくれることでしょうかね♡(N)

年度末は事前登録の予約が混み合います。

ご登録はお早めに♪

新規ご登録は随時行っております。まずはお気軽にお電話を♪

お問い合わせ 病児保育室ぱおぼお (月～金 8:30～17:30)

TEL 042-521-2777